

コロナ時代のソーシャルメディア の動向と課題

令和2年11月12日 (木)

14:00~17:00

※Webex によるウェビナー形式 (オンライン) で開催

対象：テーマに関心を有する研究者・専門家

募集定員：300名 (先着順、参加費無料、要事前申込み)

ファシリテータ

平 和博氏 (桜美林大学リベラルアーツ学群教授、国立国会図書館客員調査員)

パネリスト

鳥海 不二夫氏 (東京大学大学院工学系研究科准教授)

三浦 麻子氏 (大阪大学大学院人間科学研究科教授)

曽我部 真裕氏 (京都大学大学院法学研究科教授)

板倉 陽一郎氏 (ひかり総合法律事務所・弁護士)

久木田 水生氏 (名古屋大学大学院情報学研究科准教授)

コメンテータ

水谷 瑛嗣郎氏 (関西大学社会学部准教授)

コロナ時代のソーシャルメディアの動向と課題

令和元年度科学技術に関する調査プロジェクト報告書『ソーシャルメディアの動向と課題』の内容を踏まえつつ、今般の新型コロナウイルス禍による社会の混乱と変化を受けて、グローバルな社会基盤としてのソーシャルメディアの在り方に改めて焦点を当てるシンポジウムを開催します。

パネリストには、ソーシャルメディアに関連する諸問題に造詣が深く、計算社会科学・データ分析、社会心理学、法学、技術哲学・技術倫理などに精通した専門家を迎え、幅広い視点から「コロナ時代のソーシャルメディアの動向と課題」を考察します。具体的には、ソーシャルメディア上での偽情報の流布や誹謗中傷・炎上といった現象を題材に、その拡散のメカニズム、心理学的背景を議論するとともに、表現の自由・プライバシー保護と規制をめぐる制度的・倫理的課題について、メディア論的視点も交えて展望します。

プログラム（予定）

問題提起 平 和博氏

「コロナ時代の社会基盤としての
ソーシャルメディア」

報告 鳥海 不二夫氏
三浦 麻子氏
曾我部 真裕氏
板倉 陽一郎氏
久木田 水生氏

「データから見るデマ拡散の構造」
「社会心理学によるデマ・炎上・差別の背景」
「プラットフォームと憲法上の論点」
「ソーシャルメディア規制の現状と課題」
「コロナ時代のソーシャルメディアの倫理」

コメント 水谷瑛嗣郎氏

パネルディスカッション（ファシリテータ 平 和博氏）

申込方法

国立国会図書館のイベント情報ページにアクセスし、必要事項を御記入の上、お申し込みください。
下のURLまたは右のQRコードからアクセスできます。
<https://www.ndl.go.jp/jp/event/index.html>



申込締切 11月11日（水） 17:00

お問合せ先

国立国会図書館 調査及び立法考査局 調査企画課
（科学技術に関する調査プロジェクト シンポジウム担当）
電話：03-3581-2331（代表）
メールアドレス：ml-st-project@ndl.go.jp